

# 感染症発生動向調査委員会報告 12月

## 《今月のトピックス》

- 感染性胃腸炎が流行しています。
- インフルエンザが流行期に入りました。
- 風しんの流行が継続しています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が瀬谷区で警報レベルです。
- RSウイルス感染症が再び増加傾向です。
- 咽頭結膜熱が例年にくらべ報告数が多くなっています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

## 全数把握疾患

### ＜細菌性赤痢＞

1件のShigella sonneiの報告がありました。エジプトでの経口感染が推定されています。

### ＜レジオネラ症＞

2件の肺炎型の報告がありました。どちらも感染の原因は現在調査中です。

### ＜アメーバ赤痢＞

腸管アメーバ症4件の報告がありました。いずれも国内での感染が推定されており、うち1件は性的接触による感染、もう1件は経口感染が推定されています。残るもう2件は感染経路等不明でした。

### ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞

3件(AIDS2件、無症状病原体保有者1件)の報告がありました。AIDSのうち、1件はニューモシスティス肺炎による発症で、国内での同性間性的接触による感染が推定されています。もう1件はHIV脳症による発症で、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。無症状病原体保有者の1件は国内での異性間性的接触による感染が推定されています。

### ＜風しん＞

11件(男性7件、女性4件)の報告がありました。全国的な流行は第30週をピークに減少傾向となっていた第44週から下げ止まり、東京都を中心とした関東地方や、大阪府などの関西地方などでは現在も流行が継続しています。横浜市でも12月に入っても依然報告が続いており、引き続き注意が必要です。先天性風しん症候群予防のため、風しん予防接種の記録がない、あるいは、風しんHI抗体が陰性または低抗体価の女性は予防接種を受けることが強く勧められています\*。さらに、今回の流行の中心は、予防接種歴が無い、あるいは不明の20～40歳代男性であるため、流行の抑制には男性の予防接種も重要です。

※風疹流行および先天性風疹症候群の発生抑制に関する緊急提言

<http://idsc.nih.gov/disease/rubella/rec200408rev3.pdf>

◆横浜市感染症臨時情報：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

市内風しん届出数(2012.12.25現在)



## 定点把握疾患

平成24年11月26日から平成24年12月23日まで(平成24年第48週から平成24年第51週まで。ただし、性感染症については平成24年11月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

### 平成24年 週一月日対照表

|      |               |
|------|---------------|
| 第48週 | 11月26日～12月 2日 |
| 第49週 | 12月 3日～12月 9日 |
| 第50週 | 12月10日～12月16日 |
| 第51週 | 12月17日～12月23日 |

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。

なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

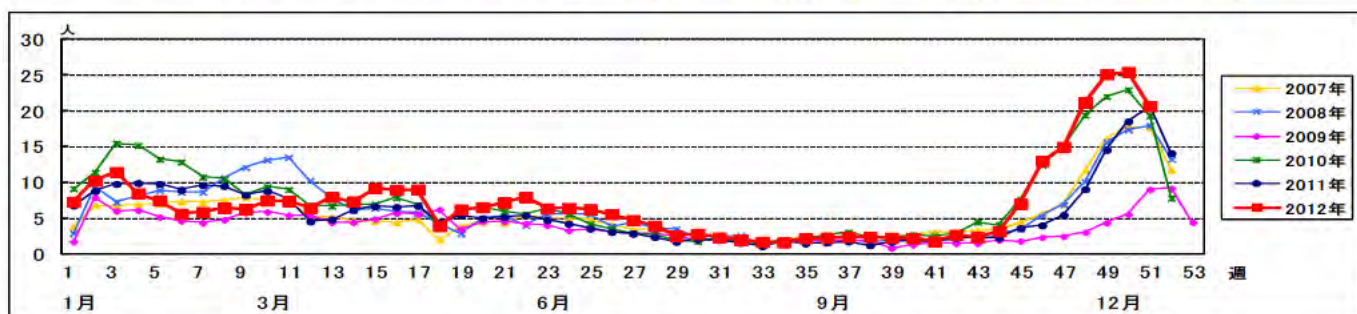
#### <感染性胃腸炎>

第48週に定点あたり21.21となり、警報が発令された後も増え続け、第50週には25.47となりましたが、第51週は20.70とやや減少しました。しかし、依然として流行しているため引き続き注意が必要です。予防には手洗い、便や吐物の適切な処理と消毒、食品の十分な加熱が重要です。ノロウイルスの消毒には次亜塩素酸による消毒が有効です。

◆横浜市衛生研究所:次亜塩素酸の詳しい使用方法

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/noro-yobou.pdf>

◆横浜市衛生研究所:横浜市感染症臨時情報:<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinjii/>

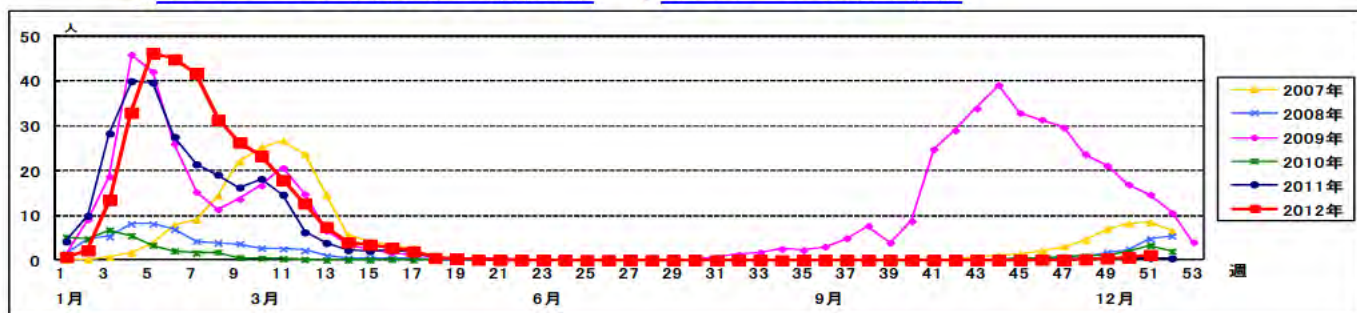


#### <インフルエンザ>

第51週に市全体で定点あたり1.21となり、流行開始の目安となる1.00人を超えました。全国では既に第50週に1.17となり、流行期に入っています。全国のウイルス検出状況では、AH3亜型(A香港型)が主流となっています。今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、予防や早期受診などの対策が重要です。

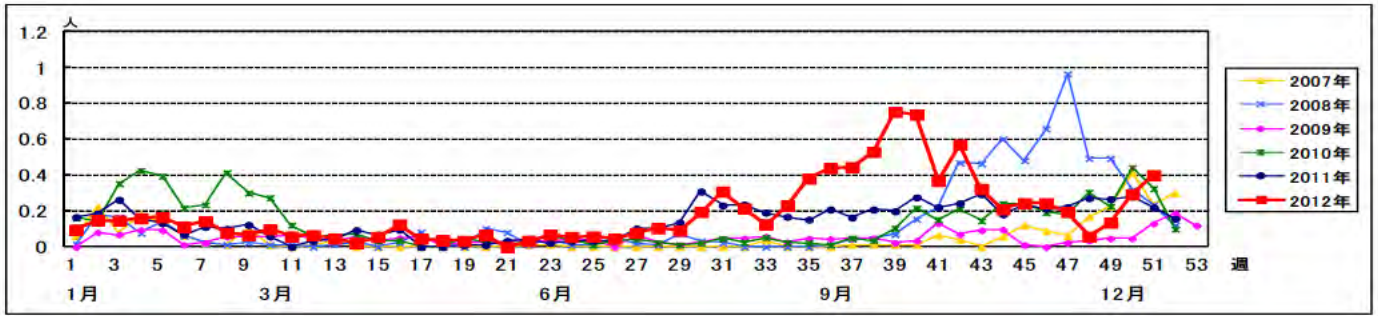
◆[インフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

◆[インフルエンザ臨時情報](#)



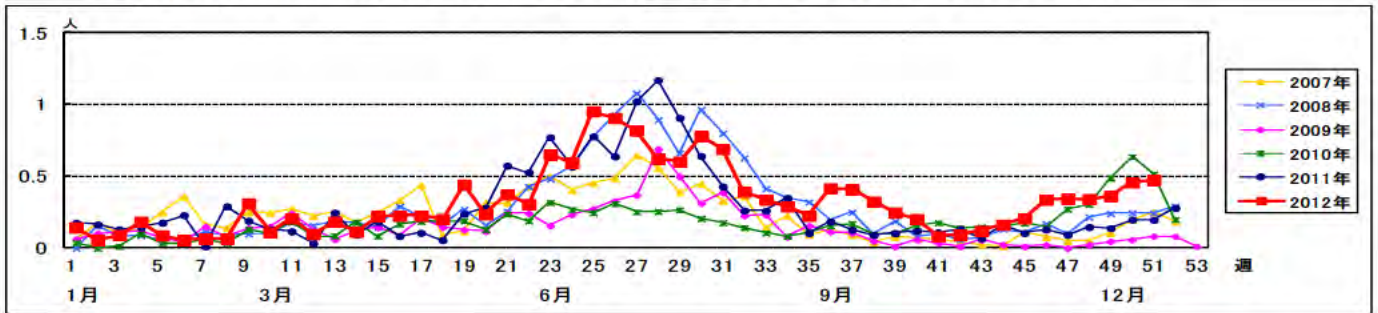
#### <RSウイルス感染症>

第48週は市全体で定点あたり0.06と減少していましたが、第51週では0.40と、上昇に転じており注意が必要です。



<咽頭結膜熱>

第51週0.48と例年より報告が多くなっています。区別では港北区1.86となっています。

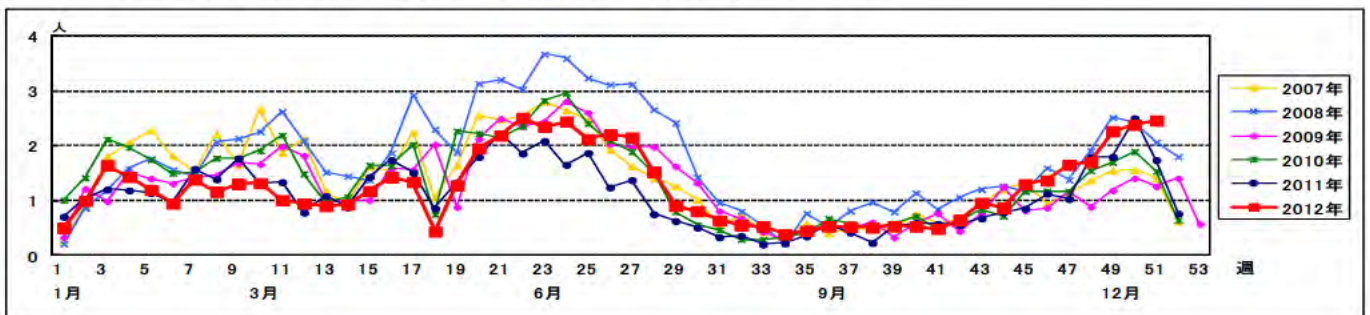


<水痘>

第51週は市全体で定点あたり2.04と、大きな流行は見られませんが、神奈川区4.20で注意報レベル(定点あたり4.00以上)を上回っており、注意が必要です。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第51週は市全体で定点あたり2.46と警報レベル(定点あたり8.00以上)を下回っているものの、増加傾向です。瀬谷区では9.25と警報レベルとなっており、注意が必要です。



<性感染症>

11月は、性器クラミジア感染症は男性が22件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が9件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が6件でした。淋菌感染症は男性が10件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

全国ではマイコプラズマ肺炎が定点あたり1.00を超える状況が続いています。横浜市でも第48週1.33、第49週2.67、第50週3.00、第51週2.50と、報告が多い状態が続いています。細菌性髄膜炎が第50週に1件(60歳代、病原体は肺炎球菌)、無菌性髄膜炎が第50週に3件(40歳代2件、10歳代1件。いずれも病原体は検出せず)ありました。クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

11月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症6件が報告されました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

## 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

12月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点53件(鼻咽頭ぬぐい液43件、ふん便9件、吐瀉物1件)、内科定点14件(鼻咽頭ぬぐい液9件、ふん便5件)、基幹定点7件(鼻咽頭ぬぐい液4件、ふん便2件、髄液1件)、眼科定点3件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎24人、胃腸炎9人、気管支炎8人、アデノウイルス感染症4人、発疹症3人、手足口病3人、嘔吐症1人、発熱のみ1人、内科定点はインフルエンザ(疑い含む)7人、胃腸炎5人、上気道炎2人、基幹定点はインフルエンザ(疑い含む)2人、川崎病疑い2人、急性心筋炎1人、熱性けいれん重積1人、不明熱1人、眼科定点は流行性角結膜炎3人でした。

1月11日現在、小児科定点の上気道炎患者2人と胃腸炎患者1人からインフルエンザウイルス(以下Inf)AH3型、気管支炎患者1人からヘルペスウイルス1型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、アデノウイルス感染症患者1人からアデノウイルス(型未同定)、内科定点のインフルエンザ患者1人からInfAH3型、1人からInfB型(山形系統)、基幹定点のインフルエンザ患者1人からInfAH3型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の上気道炎患者6人からアデノウイルス(型未同定、このうち1人はライノウイルスとの重複、1人はRSウイルスとの重複)、3人からライノウイルス、2人からパラインフルエンザウイルス2型(このうち1人はライノウイルスとの重複)、1人からRSウイルス、1人からヒトコロナウイルス、胃腸炎患者4人からノロウイルスGⅡ型、1人からAdeno5型、手足口病患者2人からCA6型、アデノウイルス感染症3人からアデノウイルス(型未同定、このうち1人はヒトコロナウイルスとの重複)、気管支炎患者2人からRSウイルス、1人からコクサッキーウイルスA(以下CA)6型(ライノウイルスとの重複)、1人からライノウイルス、発疹症患者1人からRSウイルス、発熱のみの患者1人からパラインフルエンザウイルス1型、内科定点のインフルエンザ患者1人からアデノウイルス(型未同定)、胃腸炎患者1人からノロウイルスGⅡ型が検出されています。なお、小児科定点のinfAH3型が分離された2人のうち1人はノロウイルスGⅡ型、1人はアデノウイルスの重複検出例でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

### <細菌検査>

12月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から9件、定点以外の医療機関等からは2件あり、赤痢菌、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O26:H+,VT1)が検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から11件で、A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(12月)

感染性胃腸炎

| 検査年月<br>定点の区別<br>件数 | 12月 |    |      | 2012年1月～12月 |     |      |
|---------------------|-----|----|------|-------------|-----|------|
|                     | 小児科 | 基幹 | その他* | 小児科         | 基幹  | その他* |
|                     | 0   | 9  | 2    | 2           | 156 | 101  |
| 菌種名                 |     |    |      |             |     |      |
| 赤痢菌                 |     | 1  |      |             | 4   | 3    |
| 腸管病原性大腸菌            |     |    |      |             | 2   |      |
| 腸管出血性大腸菌            |     | 1  | 2    |             | 5   | 50   |
| 腸管毒素原性大腸菌           |     |    |      |             | 3   |      |
| チフス菌                |     |    |      |             | 1   | 1    |
| パラチフスA菌             |     |    |      |             | 2   |      |
| サルモネラ               |     |    |      |             | 20  | 5    |
| カンピロバクター            |     |    |      | 1           |     | 11   |
| コレラ菌                |     |    |      |             |     | 2    |
| NAGビブリオ             |     |    |      |             |     | 1    |
| 不検出                 | 0   | 7  | 0    | 1           | 119 | 28   |

その他の感染症

| 検査年月<br>定点の区別<br>件数           | 12月     |    |      | 2012年1月～12月 |    |      |
|-------------------------------|---------|----|------|-------------|----|------|
|                               | 小児科     | 基幹 | その他* | 小児科         | 基幹 | その他* |
|                               | 11      | 0  | 46   | 94          | 22 | 142  |
| 菌種名                           |         |    |      |             |    |      |
| A群溶血性レンサ球菌                    | T1      | 1  |      | 11          |    |      |
|                               | T2      |    |      | 2           |    |      |
|                               | T6      | 1  |      | 11          |    |      |
|                               | T4      | 2  |      | 6           |    |      |
|                               | T12     | 1  |      | 12          |    |      |
|                               | T25     |    |      | 1           |    |      |
|                               | T28     |    |      | 4           |    |      |
|                               | T B3264 | 2  |      | 10          |    |      |
| B群溶血性レンサ球菌                    |         |    |      |             | 2  | 22   |
| メチシリン耐性黄色ブドウ球菌                |         |    |      |             | 7  | 26   |
| バンコマイシン耐性腸球菌                  |         |    |      |             | 1  | 3    |
| <i>Legionella pneumophila</i> |         |    |      |             |    | 2    |
| インフルエンザ菌                      |         |    |      | 7           |    | 2    |
| 肺炎球菌                          |         | 1  |      | 5           | 2  |      |
| 黄色ブドウ球菌                       |         |    |      | 1           |    |      |
| 破傷風菌                          |         |    |      |             | 1  |      |
| 結核菌                           |         |    |      |             |    | 5    |
| <i>Mycobacterium avium</i>    |         |    |      |             |    | 1    |
| 緑膿菌                           |         |    | 46   |             |    | 47   |
| 不検出                           | 3       | 0  | 0    | 24          | 9  | 34   |

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】